

ならやまトーク・投句 (秋詠編)

投句歓迎 古川まで CY003421@nifty.com

山風に川の字えがき稲の花

鈴木末一

(ならやまの田圃は出穂期。風が風紋を描き、稲の花が匂う。稲は風媒花、開花はわずか一時間だ。二百十日が近い、風の無事を祈る)

朝風や万歩ウオーキング稲穂波

坂東久平

(朝の万歩ウオーキング。コースは森へと続く田圃道、もう稲穂が出てる。秋だなあ。ここらで六千歩か。もう少し歩くかな)

思い出を運び来るや青田風

笠井文夫

(幼少期の昭和20年代。あの頃は農村が最も活気があった時代だった。山は青く、青田は豊穰を約束。村は子供であふれ、顔は輝いていた)

颱風や太平洋が押し寄せる

藤原 勲

(お遍路の旅、二十四番室戸岬の海辺の遍路道を歩く。折からの台風で浪が道を洗う。「太平洋が押し寄せる！」とは迫力満点)

南々と早めの避難野分去る

岡田安弘

(超大型台風10号に物々しい事前対策。幸い台風は思った程でなかった。「空振り」でなく次に備える「素振り」と評価に同感)

米トツプ親指立てり野分だつ

岡田安弘

(大統領3日でコロナ退院、ツイートにポーズ! ホワイハウスのパフォーマンス。やるもんだ。74才は当会でも働き盛りか)

病癒へ土の匂ひや秋起こし

藤原 勲

(田んぼの秋耕。ひんやりとした土が匂う。大丈夫かと体に問いなながら田を打つ。どうやらOKらしい。秋の空気を胸いっぱい深呼吸)

野分あけ畑打つ肩に風強き

八木順一

(台風一過。朝から畑を見回り、被害なくほっとする。さっそく農作業に取り掛かる。台風の名残か木津川を吹く風がまだ強い)

辛き夢浅き旅寝や青蜜柑

八木順一

(生石高原の旅の宿。夜半つらい夢に目覚めた。慣れない枕のせいだろうか。土産店で買った探りたての青蜜柑が匂うためだろうか)

花蕎麦やノビタキ狙うカメラ砲

坂東久平

(笠の山。満開の蕎麦の花にカメラの砲列。狙うはノビタキだった)

滝削る幾世紀もの技巧かな

中井 弘

(大台山系の谷筋。太古からの水の流れが岩を穿ち、このような谷を削り出した自然の力に畏怖の念を感じる。夏の山行の記憶から)

祝敬老お隣さんもお向かいも

古川祐司

(40年前に開発されたこの街、老いも一斉だ。向う三軒両隣祝い合う。自治会のお祝いも大変だろう。何よりも孤立は禁物。先ず繋がること)

秋澄むや鐘の音近し長久寺

古川祐司

(台風一過、突然あたりの空気が澄んで、景色の輪郭がくつきりしてくる。霞んでいた国宝長久寺の屋根や森が、すぐ近くに見えて……)